

# 肘水

射水神社報

平成22年6月発行

第14号



# 社頭雑感

射水神社宮司

松本正昭

この春は温暖であるかと思えば寒気が到来し、何度も冬への逆戻りを繰り返しながら漸くにして迎えると言う異状ぶりであった。けれども、例年に違

うことなく一年の巡りを規範として草木も自らの生を養い、芽を出し、花を咲かせている。サクラ名所百選と称える当神社の鎮座する高岡古城公園のサクラも、例年の開花日にそれほど遅れなく花咲き、春先の寒さで例年より長い期間我々の心を和ませてくれ、これは有難い異変だったといえよう。

サクラが日本の花の代表である事は、古代に遡っても同じである。一日の平均気温が摂氏十度の陽気になると咲くところから、苗代桜・種蒔桜・田植桜とも呼ばれ、その開花は土地ごとの農事暦に深く関り、桜の花を見て稲の豊かな稔りを予祝する行事が本来の「花見」であったそうである。

この桜の花も時の移ろいと共に儚くも散り、急速に新緑が野山一面を覆い、

田には水がはられ愈々田作りの季節を迎える。町々村々では今年一年の五穀豊穰を願う春祭りが執り行われ俄かに活気づく。

日に日に田は早苗に埋め尽くされ、山々や田園の景色もまた心を十分に和ませ瑞穂の国であることを実感させてくれる。

我々の祖先は、このような風景から自然の摂理を知り、季節の移ろいに逆らうことなく、それに素直に従い、より善く生きる道を見出し、自然に対し畏敬の念を抱き「祭り」の形で「祈り」と「感謝の心」を表し、文化を築いてきたのである。

しかしながら、近年、山々や田園風景を眺め、心を痛めることは、どんな田圃や山々が住宅団地や公的施設・道路などに転用されていくことである。道路・住宅・公共施設ともに必要であることは否めないが、それはあくまでも自然環境を奪うものであつては

いけない。昨今の社会状況から、専業農家が極めて少なくなり、他の仕事の傍ら農作業を営む実態ではやむを得ぬ面があるにしても、農業の将来が憂慮されてならない。又、国際経済による外圧もあつて日本の農政が揺れ動いている背景も大きい。

しかし、これ以上、山々や農地、そして農業の実態を破壊してはならない。農地や山々は単に食料生産・果樹栽培の場だけではなく、自然保護と人間生活環境を調和し、整えてゆく大きな役割を果たしているからである。日本の農業には日本のよき伝統文化と精神文化が温存されている。それは「日本の心のふるさと」そのものであり、瑞穂の国といわれる由縁である。これからの日本の健全な発展をするとき、このことを忘れてはならない。

私は、崩れゆく山々・田園風景を見ながら、何時もながらに思いを巡らすのである。



# 平成二十二年度奉賛会総会



樽谷雅好先生



総会の模様

6月3日午後2時より、射水神社参集殿において、射水神社奉賛会総会が開催された。本年度は新たに新任顧問として西田隆文さま、新任理事として荻布善亮さまをお迎えするなど、活発な会務活動案などが了承された。尚、総会議事後の記念講演には、二上山総合調査研究会などを中心に活躍され、地域の伝説などに明るい樽谷雅好先生をお迎えした。

内容は、高岡城を中心としたこの町の成り立ちを踏まえつつ、そこに残された伝承を紹介。高岡城築城の際に残された、お堀の掘削に関係する伝承については、その物語の核となる伝承があるのでは？との問題提起がなされるなど、地域に根差した歴史伝承について、楽しく分かりやすい講演が行われた。

## 奉賛会新入会員

|            |       |
|------------|-------|
| 北川 茂       | 田村 昇  |
| 中村 数一      |       |
| 塩崎商衡(株)    |       |
| 伊勢 公一      | 関 久幸  |
| 金井 靖治      |       |
| (株)α-1高岡駅前 |       |
| 原田 順勘      | 藤坂 貞夫 |
| 寺井 史佳      | 関 庸次  |
| 金森 一郎      |       |
| しゃらく高岡駅南店  |       |
| 福島機会工業(株)  |       |
| (株)エイ・テック  |       |

## 奉賛会新任顧問

顧問 西田隆文

## 奉賛会新任理事

理事 荻布善亮

平成22年6月3日付

## 奉賛会入会の薦め

### ○会費 年額

個人会費 三千円以上  
法人会員 五千円以上

## ○待遇

- ・会員の芳名は簿冊に記録し、御本殿内に納め置きます。
- ・毎月の朔日祭(一日)・月次祭(二十三日)斎行の際、会員各位の家内安全・生業繁栄を祈願致します。
- ・大祭毎に昇殿参拝のご案内を致します。
- ・個人会員には、六月の夏越大祓・年末の師走大祓等のご案内を致します。
- ・年末に射水神社御神符並びに、特別干支絵馬をお届けします。
- ・社報(年二回)をお届けします。
- ・研修会等の参集殿のご利用に便宜をお図り致します。

## 【お申し込みは】

○事務局 高岡市古城番一号  
射水神社々務所内  
電話 〇七六六(二三)三一〇四

# 杜の景色

## 杜の景色（上半期）

- 1月1日 歳旦祭 初詣
- 1月14日 左義長  
(射水の火祭)
- 2月節分 節分祭
- 2月11日 紀元祭
- 2月17日 祈年祭
- 4月18日 日吉社春祭
- 4月23日 春季例大祭
- 4月29日 植樹祭
- 4月30日 院内社春祭
- 5月13日 悪王子社春祭
- 6月27日 鎮火祭
- 6月30日 夏越大祓
- 人形清祓式

## お花見シーズン

本年は随分寒さの抜けない春先であつたことから、古城公園の桜も非常に長く楽しめました。当社におきましてはお花見シーズンに、古城公園を散策される方が多数見えられることから、拝殿前に提灯をさげ、足元も明るく安全にご参拝いただけるよう心がけております。夜桜見物をされる方々。この時期の射水神社は夜間参拝も楽しめます。夜店などが楽しめる古城公園小竹藪付近とは違った趣の桜をお楽しみください。



## 日吉社

二上山頂上付近にあります日吉社の春のお祭りを行いました。本年は天候にも恵まれ、同社の御前にて神楽舞を奉奏することができました。ご参列の方々がお見えにならないお祭りではありますが、屋外また山頂に登り、お供え物をして、祝詞を読み、舞を奏でるその姿は、往古のお祭りの姿を連想させます。かつての古代人がそうであつたように、状況が許す限りこの形を続けたいものであります。



## 樹木清祓い

当社におきましては、長年の懸案でありました駐車場の整備の一部を、本年夏に実施致します。現在ある景観を限りなく残して行きたいと思っておりますが、なかなか全て手をつけないわけにもいかない所もあり、まずは御神前にて報告をして工事に取り掛かりたく考えております。尚、工事期間中は大変ご不便をおかけ致しますが、ご理解、ご協力のほどお願い申し上げます。



## 夏越の『大祓』ご案内

一、日時

六月三十日

一、場所

午後六時齋行  
射水神社境内

一、初穂料

お心持ち

## 人形清祓式のご案内

一、日時

六月三十日

一、人形受付

午後六時齋行  
午後一時～午後五時まで

一、初穂料金

志ですが二千円程度が目安です。



## 神前結婚式

御神恩をいただき、幸おからん事を。

平成二十二年二月奉式の方々

竹内 洋二・泰子  
加藤 一成・優子  
山崎 太輔・真由美  
北村 公彦・博美

平成二十二年二月奉式の方々

本保 茂和・久弥  
関 孝輔・絵梨  
村本 至・美春  
宮下 敬成・千代子  
廣本 浩太・好恵  
石田 紘一・八千代  
水原 延幸・貴子

平成二十二年三月奉式の方々

上戸 健也・あづさ  
柴田 賢・祐子  
浅川 良仁・絵り子  
宇田 浩・藤代

平成二十二年四月奉式の方々

堀川 陽生・美佐子  
新 正樹・優子  
アンドリュー・クリンワルド・愛  
コンスタンティノス・ベイス・千晶  
ハンパインソウ・有紀子  
マーク・ラスティウガ・亜由美  
金井 崇紘・佳奈子  
吉江 正隆・彩子  
本吉 俊貴・楊子  
下平 健司・忍  
富田 幸光・さなえ  
天池 靖英・麻利子  
マツミリアー・ゼツカ・恵理子

平成二十二年五月奉式の方々

大郷 茂一・綾子  
加藤 幸介・真由美  
寺井 賢勇・麗子  
佐野 修・智子  
舟本 智史・聖子  
網谷 篤史・彩  
吉田 健治・昌美  
池田 篤・綾子  
長谷川 達也・容子  
吉國 純平・彩  
小菊 泰雄・永吏子  
森河 大造・みちる  
山本 健治・愛  
池田 孝史・真寿美

平成二十一年十二月  
平成二十二年五月奉式の方々



# 越中の食彩

高岡ホテル 女将 深田加代

## 鮎のおはなし

初夏になって、鮎が話題に上がる頃になりました。鮎は日本各地、台湾北部朝鮮、中国南部に棲息しています。一年限りの魚なので年魚と言われます。川で生まれ、幼期は海で育ち、再び川に戻り、体長が30cmに生長してから産卵する遡河魚です。

アユの名前の由来は『日本釈明』（貝原益軒、一七〇〇）に「鮎はあゆるなり、あゆるとはおつるなり。古き言葉也」とあり、「落ちる」の古語「あゆる」から転訛したとする説や、「愛（アイ）らしい魚（ユ）」、「味佳き魚」の転訛説もあります。鮎は、昔は戦況を占う為に使われたことが「日本書紀」に記されています。神功皇后が三韓征伐の際、飯粒をエサにして「新羅に勝つことができるなら魚が釣れますように」と祈って投げ入れたところ、釣れた魚がアユだったという。中国で「鮎」という字はナマズを指し、アユは「香魚」とされます。日本でも香魚はアユのことですね。又、古くから鵜飼が行われていました。飛鳥時代の「古事記」や、奈良時代の「日本書紀」「万葉集」にも記されています。最初は献上品でしたが、後には庶民にとっても親しみ深い魚

だったことがよく分かります。

話は変わりますが、美食家の北大路魯山人も、このほか鮎を好んだ一人です。季節は6月頃の鮎が良い。大きさは3、4寸くらいまでのもの。背と腹のある中間部が一番旨い。深流激瀬の鮎を産地に行つて食べる。更に、姿の美しい鮎は一流料理店で味わうこと。と味わい方を伝えています。

最近では産地へわざわざ出掛けなくても、流通事情がとも良くなっているのので、採れたてと同じような状態のものを食べることが出来ます。魯山人がいたときと羨ましがるところですね。当店では、新鮮な鮎を塩焼き、天婦羅、酢物、鰯等、いろいろな料理方法でお客様に口福になって頂きたいと、日々努力を重ねております。どうぞお気軽にお越し下さい。お待ちしております。



あぶり焼き

## 神道

## いろは

### 更衣祭について

### 教えて下さい。

更衣祭とは、神様が着けられる神御衣（かんみそ）を新たに調進し、古いものと取りかえる祭りです。年に二度おこなわれる場合は、我々の更衣の時期と同様に、季節の変わり目である夏の初めに夏の装束を、冬の初めに冬の装束を奉り、また年一度の場合は、例祭に先立って斎行されることが多いようです。

「古事記」や「日本書紀」には天照大神が御自身で装束をお作りになっていることが拝見できるように、装束の奉獻は衣食住のひとつとして古くから神事と深くかかわっており、その代表的な祭事として伊勢の神宮の神御衣祭（かんみそさい）があげられます。

毎年五月と十月に皇大神宮（内宮）と※荒祭宮（あらまつりのみや）に和妙（にぎたえ）と荒妙（あらたえ）は反物の形で奉られます。神宮の祭祀の中でも古い由緒を持つお祭り、大神様のお姿を装束の形で現すことは畏れ多く、またお気に召して頂けな

いとの理由から、反物のままで糸と縫い針を添えてお供えをするのとことです。

更衣祭は熱田神宮や賀茂御祖（かもみおや・下鴨）神社。太宰府天満宮など、全国の神社にみることが出来ます。また更衣祭以外でも、神前に布帛などの幣帛を奉ることは、一説に神御衣を作るための料を供えることであるとも考えられているようです。

人々が季節とともに衣類を要えるのと同様に、毎年欠かさず、神々に新たな神御衣を奉る理由の一つには、さらなる神威の発揚を期待するという人々の願いがこめられているように思われます。

#### ※荒祭宮

伊勢の神宮の内宮神域内に鎮座し、天照大明神の荒御魂（あらみたま）を祀る。荒御魂とな積極的・活動的な神霊のはたきのこと。



『神道いろは』より

# 『ふるさと 射水神社』

## ⑭二上山大権現養老寺

射水神社は中世から近世にかけて、たいへん神仏混淆の色濃く、その祭祀は、別当寺である二上山養老寺の主導するところとなる。文明七年（二四七五）九月に、後土御門天皇は二上莊領家職の土御門三位に繪旨を下し、先例があるということので射水神社の造営に越中国棟別銭の使用を承認している。このことで二上莊の鎮守である射水神社並びに養老寺は、その当時、越中国全域に及ぼす相当の伝統的な神威を保持し続けていたことがわかる。神保氏が一向一揆と対立した時、養老寺を保護して味方に引き入れている。その頃、養老寺の法燈を護つたのは、金光院・慈尊院・本覚坊であるが、その内、金光院は二上談義

所と称して最も有力であつたらしく、天正五年（一五七七）上杉謙信が能登を攻めた際、能登から逃れた長連竜はここに投じている。

延宝二年（一六七四）「加越能寺社来歴」や貞享二年（一六八五）の「寺社由来」など、江戸時代の史料では二上神の呼称が消え、真言宗の二上山養老寺を惣名とする二上大権現か二上山権現と記され、祭神の瓊々杵尊、脇立の彦火々出見命・火闌降命も、本地をそれぞれ釈迦・葉師・観音として位置づけている。現在も金光院には、平安時代後期の櫓一本造り聖観音立像や、宝徳二年（一四五〇）在銘の青銅製雲版などの仏具があり、神仏習合の歴史が古いことを示している。

二上山麓は戦国の兵火の渦に呑み込まれ、二上山大権現養老寺は、昔の盛観は失ったが、山城主となつた前田利長は、民心安定のために郷土の民衆の崇敬深いこの二上山大権現養

老寺を厚く保護し、慶長十五年（二六一〇）、本堂・拝殿等建立を命じ、御供領の石高も寄進した。また、越中国一円での知識米徴収を再興したが、二上神の神威が大きく広大な信仰圏の存在が、それを可能にしたと考えられる。その繁栄の一端を証言しているのが、元宮・射水神社（二上山射水神社）に祀られている木造男神坐像である。平安時代中期の作で、櫓の一本造り、彫眼であご髭があり昔の貴族の姿をしている。鉿彫りの手法を基調にした地方色の豊かなこの投身大坐像（像高二二一cm）は、全国に存在する数少ない神像の中でも最大級の優品で、国の重要文化財に指定されている。



木造男神坐像（国指定重文）  
二上山射水神社蔵

## 編集後記

みなさまご存知でしょうか「歴女」先日テレビを拝見していたら、とても綺麗な女性が歴女として紹介されておりました。たしかにあんな女性といみじみ「関ヶ原の合戦」について語り合いたい気がします。

時に神社におきましても、御朱印にこられる方々は年配の方が多かったのですが、最近では20代くらいの方々もお見えになり、先日は小学生の男の子も御朱印を集めておりました（その年齢の時、編者はチョロQを集めていたはずですが……）

いずれにせよ、この歴史や神社に対する一種のブームが、クイズを始めゲームの世界のように、勝ち負けといった尺度にて色分けする、明快さだけが信条のブームでないことを祈ってやみません。

「江戸幕府を開いたのは？」徳川家康!!「ピンボーン♪確かに正解なのでしょ

うが、歴史つてそうじゃないですよね……神社もそうです。御朱印のチェックポイントでもなく、古さが取り柄の建物でもない。ぜひこの深遠なる世界を自らの足をかけ、できるだけ多く味わってみて下さい。

発行 射水神社  
発行所 〒九三三〇四 高岡市古城一  
TEL (〇七六六) 二二一三二〇四  
FAX (〇七六六) 二二一三七二五  
印刷所 キクラ印刷株式会社



悠久の歴史にいだかれ  
とこしえ 永久の愛をお誓いします。



平成22年4月挙式 ベイス家 橋本家 挙式

私達は忘れない

美しい桜、うらかな春の日ざし、

日本の結婚式

参進の儀

参集殿通信

## —うつくしの杜ブライダルフェアのご案内—

Utsukushi no mori Marriage story



平成22年4月挙式 グリンワルド家 頭川家 披露宴

### うつくしの杜 夏フェスタ

平成22年7月11日(日)

10:00~17:00

- ・模擬挙式 11:00~、15:00~
- ・模擬披露宴 11:45~・ケーキ試食
- ・試食会 ・和装、洋装衣裳展示
- ・会場コーディネート ・引出物展示

### 婚礼相談会

平成22年7月4日(日)

17日(土)~19日(月)

8月1日(日)・8日(日)・15日(日)

22日(日)・29日(日)

10:00~17:00

- ・式場、披露宴会場見学・相談会

### 和装試着チャレンジ(要予約)

平成22年7月19日(月)

8月22日(日)

10:00~16:00 (5組限定)

うつくしの杜、結婚式場

# 射水神社

〒933-0044 高岡市古城1番1号(高岡古城公園内)

お問合せ (0766) 22-0808

URL <http://www.imizujinja.or.jp>

Eメール [jinja-k@mbs.sphere.ne.jp](mailto:jinja-k@mbs.sphere.ne.jp)